

NEWSLETTER

No.29

2013年6月15日

会長 林 宅男 事務局 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学外国語学部
山本英一研究室内

psj.secretary_at_gmail.com <http://www.pragmatics.gr.jp>

郵便振替口座 00900-3-130378 口座名:日本語用論学会

ゆうちょ銀行 支店名:099 当座口座番号:0130378 口座名:日本語用論学会

三井住友銀行 学園前支店 普通預金 店番号546 口座番号3755278 日本語用論学会 五十嵐海理

日本語用論学会 Newsletter 第29号をお届けします。重要なお知らせとして、**第16回大会のお知らせ**、**業務の一部業者委託のお知らせ**、**日本語機能学会との提携のお知らせ**などがあります。なお、すでに会員の皆様にはハガキでお知らせしました通り、**第16回大会発表申し込みの締め切りが例年よりも早く7月31日となりました**。ご注意ください。

★会長メッセージ
更なる発展を目指して

林宅男(桃山学院大学教授)

緑樹の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。新しい年度に入りましたが、会員の皆様にはいつも温かいご支援をいただきお礼申し上げます。

昨年12月の年次大会は、学会創立以来15周年に当たるということで、企画の段階から運営委員一同特別な思いで取り組みました。その思いが通じたのか、発表の募集には70件を超える多数の一般応募がありました(これは、第10回記念大会に次いで今までで2番目に多い件数となります)。また、プログラムの企画に際しても、海外からの二人の研究者の基調講演と会長就任講演に加え、英語でのシンポジウム、早朝から4会場で12のワークショップ、16件のポスター発表、例年より一つ多い5会場での研究発表など、盛りだくさんの内容を準備して臨みました。そして、会期中は、二日間で200名を超える先生方や学生の皆様が参加して下さい、多くの会場で熱のこもった議論を交わしていただくなど、この記念大会をつつがなく成功裏に実施することができましたことを大変嬉しく思います。大会の企画、応募受付・発表論文の審査、当日の実行等々長期に亘る様々な局面でご尽力いただきました運営委員の方々、会場を提供下さり大会の運営にご尽力いただき

ました大阪学院大学の皆様、そして大会に応募、発表していただきました皆様に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、昨年度春のニューズレターでは、学会創立15年目を一つの節目と考え、幾つかの改革表明をさせていただきました。その一つは年次大会の開催地の広域化を目指すということで、今年度は関西ではなく、慶応義塾大学(三田キャンパス)で開催することになりました。東京の大学での開催は初めてで、過去に関東圏で大会が開催されましたのは神奈川大学での第6回大会(2003年)以来のことです。二つ目は組織の強化でした。過年度に退任された数名の委員の補充の必要もあり、今年度は7名の研究者の方に新しく運営委員に加わっていただくことになりました。尚、就任依頼に当たりましては、開催地だけでなく組織的にも広域化を図る必要があるという観点から、今回は、関東、中部、九州方面の方をお願いすることになりました。三つ目は、学会業務の一部業者委託の件でした。皆様に既にハガキでお知らせしていますように、今年度から会費の納入方法が、郵便局からの振替だけでなく、クレジットカードも使えるようになり、会員情報もホームページから変更可能になりました。また、これにより海外の会員や外国からの応募も増えることが期待されます。更にもう一つ、先のニューズレターでは触れておりませんでした、今後は他の学会との交流と連携の推進も重要と思われます。3年前には、言語系学問の調和ある発展と社会的貢献を期して「言語系学会連合」が立ち上げられ、本学会も早くから設立当初から加入しております。更に本学会は、この度、「日本機能言語学会」との間で両学会の様々な行事への参加・発表に関する「相互乗り入れ」の学術協定を独自に締結しました(詳しくは、事務局から

の報告をお読みください)。

最後に、本学会の語用論研究に対するスタンスと学会の特色について一言付け加えさせていただきます。語用論研究とはどういうものでどうあるべきなのかといった点については、本学会員も含め、研究者の間で今まで様々に議論されてきたところでもあります。例えば David Crystal (1985) は、語用論を言語の選択、制限、及びその効果を言語の使用者の観点から探究する学問であると定義していますが、実際にその守備範囲をどのように規定するかは研究者によって異なります。それは語用論を特定の問題を扱う言語学の一つの分野と見るのか (componential view)、コミュニケーションの問題を様々な観点から捉える研究と見るのか (perspective view) という議論に集約されるものでもあります。本学会は、1998年に立ち上げられて以来、後者の考え方に添う形で、コミュニケーションの諸問題を様々な観点から捉えた幅広い分野の研究の発表や啓蒙の機会を提供してきました。そのこともあり、その後会員数は増え続け、お陰様でここ数年は450名前後のメンバーを擁する中規模の学会として発展してきました。また、特に10回大会以降は、毎年海外から著名な語用論研究者を招き、海外からの発表者や日本人による英語での論文発表、更に最近では英語でのシンポジウムを企画するなど、積極的に「国際化」を推進して参りました。私自身も昨年はその流れに背中を押される形で会長就任講演を英語で行いました。国際化という点では、特に最近では、海外での学会や国際会議での日本人研究者の発表や参加が著しく増えています。語用論分野での一例を挙げますと、「国際語用論学会 (IPrA)」には昨年度は170名近くの方が会員として登録され (全体の約13%)、近年の大会には100名以上もの方 (全体の一割以上) が参加しています。日本語用論学会の年次大会も、今後は、International Conferenceと銘打ってでも、海外からも更に多くの発表者や参加者に参加していただき、一層国際的な学会になることを祈っています。今年度の大会も、さまざまな観点からの研究発表を通して、更なる学問的研鑽の場となると共に、多くの新しい出会いや親交を深める機会となることを願っております。

★ 第16回記念大会のお知らせ

2013年度の第16回大会は、以下のとおり、東京での開催となります。どうか皆様奮っての発表ご応募・ご参加をお待ちしております。な

お、未確定部分につきましては、確定次第、順次 HP で更新していきますので、ご確認ください。

◆日時・場所

2013年12月7日(土)、8日(日)
慶應義塾大学・三田キャンパス
(<http://www.keio.ac.jp/ja/>)
東京都港区三田2丁目15-45
(03-5427-1517)

◆大会講演 (6月1日現在の予定です。)

(1)基調講演 (12月7日予定)

題目:「文法と語用論のインターフェイス」(仮題)

招聘講演者: ミラ・アリエル教授 (テル・アヴィヴ大学)

Plenary Lecture: The grammar/pragmatics interface

Professor Mira ARIEL (Tel Aviv University)

(2)公開シンポジウム (12月8日予定)

テーマ: Implicature

司会: L.スコウラップ (大阪府立大学)

パネリスト: 田中廣明 (京都市芸繊維大学)

吉村あき子 (奈良女子大学)

松井智子 (東京学芸大学)

指定討論者: ミラ・アリエル (テル・アヴィヴ大学)

Symposium: Implicature

Chair: Lawrence SCHOURUP (Osaka Prefecture University)

Speaker: Hiroaki TANAKA (Kyoto Institute of Technology)

Akiko YOSHIMURA (Nara Women's University)

Tomoko MATSUI (Tokyo Gakugei University)

Designated Discussant: Mira ARIEL (Tel Aviv University)

(3)チュートリアル (12月8日予定)

テーマ: 会話分析

講師: 西阪仰 (明治学院大学)

初心者・初級者を対象に会話分析について導入的解説を行います。

◆発表募集

発表言語は日本語と英語の両方で、発表形態は、今まで通り、口頭発表、ポスター発表、ワークショップの3種類です。尚、ワークショップにつきましては、一つのテーマについて様々なアプローチとから深く検討し研究者の交流が図れる良い機会でもあり、今後も一層促進していきたいと思っておりますので、皆様是非奮って応募いただきますようお願いいたします。以下に応募要領を示します。

◆応募要領

発表の種類にかかわらず、すべて用紙サイズをA4とし、日本語の場合は2,500字以内、英語の場合は500 words以内で作成してください。参照文献は文字数の制限に含めません。

様式は自由としますが、所属と氏名は記入しないでください。ファイル形式は、Microsoft Word形式(doc, docx)か、PDF形式(pdf)しか受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。ワークショップの申し込みについては、代表者が全員の原稿を一つのファイルに取りまとめてください。詳しくは、本学会ホームページの「年次大会：研究発表募集要項」<http://www.pragmatics.gr.jp/cfp.html>を必ずご覧の上応募してください。

◆発表形態

口頭発表：発表25分+質疑応答10分
ポスター発表：1時間40分（掲示時間）
ワークショップ：1時間40分、特定のトピックについて3名以上の団体（司会者を含む）で応募（ワークショップは団体発表のみに変更になりました）。

◆発表言語

日本語もしくは英語。

◆応募締切

2013年7月31日（水）必着。昨年度までよりも締め切りが早くなっております。ご注意ください。

◆申し込み資格

発表の申し込みは会員に限ります。第一発表者が会員でない場合、必ず申し込みと同時に入会の手続きが必要になりますのでご注意ください。

◆申し込み制限

単独発表・共同発表にかかわらず、一人の会

員が第一発表者として申し込みできるのは、一大会につき1件のみです。また、第一発表者としての申し込みがある場合、共同発表は自身が第一発表者であるものを除いて、1件のみです。第一発表者としての申し込みがない場合、共同研究の第二発表者としては2件までに限られます。

◆選考について

選考および研究発表の割り振りは運営委員会が行い、結果は9月中旬以降のなるべく早い時期に投稿者に通知します。

◆問い合わせ先

E-mail: presentation@pragmatics.gr.jp

（大会運営副委員長・小山哲春宛）

投稿に関するお問い合わせは、できるだけ時間に余裕をもってお願いします（7月20日頃まで）。締め切り直前のお問い合わせには適切に対応出来ない場合がございますのでご了承ください。

◆応募方法

2011年の年次大会より、EasyChairを利用したオンライン申し込みとなっております。下記アドレスからアクセスしてください。必ずアクセスの仕方を上記サイト「年次大会：研究発表募集要項」からご確認の上、ご応募ください。
EasyChair for PSJ2013:
<http://www.easychair.org/conferences/?conf=psj2013>

★ The 16th Annual Conference of the Pragmatics Society of Japan

http://www.pragmatics.gr.jp/conference_e.html

Date: Dec. 7th and 8th, 2013

Venue: Keio University, Tokyo

(<http://www.keio.ac.jp/>)

We are pleased to announce that the Pragmatics Society of Japan will be holding its 16th Annual Conference and is calling for paper presentations. With Dr. Mira Ariel as keynote-lecture speaker, our 16th conference aims at bringing together students and researchers working in this growing field of pragmatics and its related areas.

◆Call for Presentations

1. About presentations

Presentation Type: Lecture presentation:

Lecture 25 min. + QA 10 min.
 Poster presentation: 1 h 40 m.
 Workshop: 1 h 40 m. (Organization only). 2.
 Language: Japanese or English

◆ **Guidelines for abstract submission:**

1. Deadline for submitting abstracts
 July 31th, 2013
 2. Online submission page: EasyChair for PSJ2013:
<http://www.easychair.org/conferences/?conf=psj2013>

3. Submission of Abstracts: Abstracts are invited for paper presentations on any aspect of pragmatic analysis from a variety of fields, including historical pragmatics, cognitive pragmatics, the interface between pragmatics and other disciplines, interlanguage pragmatics, social pragmatics, comparative or contrastive pragmatics studies.

Abstracts must be in English and must be submitted electronically on our online submission page, as attachment files in MS Word format (*.doc, or *.docx) and, if possible, in PDF format (*.pdf).

Abstracts should be approximately 500 words in length, not including references, figures, tables, and graphs. Abstracts are accepted in the following categories:

- Lecture presentation
- Poster presentation
- Workshop

Also note that the conference office only accepts submissions from members of the Society. The first author should be a member in the case of a group presentation. For membership, please contact the business office, whose email address is shown below.

4. Notification of the selection:

After September 20th

5. Contact person:

E-mail: presentation -at- pragmatics.gr.jp
 (Tetsuharu Koyama)

◆ **Online submission page**

The page "EasyChair for PSJ2012" can be accessed at:

<https://www.easychair.org/account/signin.cgi?iid=41742>

- How to create EasyChair account

To use EasyChair, you must first create an account.

1. Access "EasyChair for PSJ2013", then

click "sign up for an account".

2. Step 1: Captcha.

3. Step 2: Fill out the following fields: First name, Last name, Email. Then, click "Continue".

4. "Account Application Received" will appear.

5. You will receive an email containing a URL.

6. When you receive the email, click the URL. Please input an account name and password, then click "Create my account".

7. Your account will be created.

• How to submit at EasyChair

1. Access EasyChair for PSJ2013 and sign in to access your account.

2. Click "New Submission".

3. Fill out the following fields.

Author

Title

Abstract

Type of presentation

(Lecture presentation, Poster presentation, or Workshop)

Presentation language (Japanese or English)

Topic area (Choose one or two of the following):

- deixis and reference

- pragmatic inference

- speech acts

- politeness and socio-linguistic approaches

- cognitive linguistic approaches

- relevance theory

- pragmatics and grammar

- pragmatics and language education

- discourse analytic approaches

- conversation analysis,

ethnomethodology

- historical pragmatics

- other

4. Upload Paper: Papers can only be submitted as

Word or pdf files.

5. Click "Submit"

★ **第 15 回大会報告**

第 15 回大会は 2012 年 12 月 1 日～2 日に大阪学院大学で行われました。参加者は発表者含め、214 名でした。

★ **第 14 回大会発表論文集 第 7 号(2011)の訂正**

目次の5ページ目(英文目次の1ページ目)
Table of Contents Lecture Sessions:
Presentation in Japanese 上から8番目
Masatoshi KONNO:

(正) Interpretive Use of Discourse ...

(誤) Imperative Use of Discourse ...

ここに訂正とお詫びを申し上げます。

★ 第9回談話会報告

2013年4月6日、関西大学千里山キャンパスにおいて、西光義弘先生(神戸大学名誉教授)に「ひとりごとと他動性一日英対照による語用論の基盤に関する提案」と題して講演していただきました。悪天候にもかかわらず32名の参加者があり、質疑応答も活発に行われました。

《事務局より》

★ 業務の一部業者委託について

この度、会員の皆さまへのサービス向上を目指し、学会の業務を一部、業者に委託することになりました。これにより、学会費の支払い方法が、これまでの郵便局からの振替だけでなく、クレジットカードも使えるようになります。また、6月下旬よりホームページにて、皆さまの会費納入状況もご確認いただけるようになります。所属等の個人情報もホームページ(My Page)上で変更していただくこととなります。

★ 日本機能言語学会との提携について

本学会は、相互の交流促進を通じて若手研究者の育成と学術研究の発展に寄与していくことで、日本機能言語学会と合意し、本年4月1日付けで、学術交流協定に調印をいたしました。これにより、本学会の会員は、日本機能言語学会の年次大会(研究会を含む)に無料で参加できるだけでなく、別途申し合せた実費を支払うことで、大会で研究発表を行うことができます(詳しくは事務局までお問い合わせください)。会員の皆さまが、この制度を積極的に利用され、両学会の活動と交流が盛んになることを期待しております。

★ 学会ロゴマーク募集のお知らせ(予告)

本学会は昨年の年次大会で創立15周年が経過し一つの節目を迎えました。そこで、この度学会ロゴマークを公募したく存じます。詳細については追って学会HPとメールリストでお伝えいたしますので、その節はどうぞ奮ってご応募下さい。

★ 『語用論研究』第14号の発行と15号の応募状況について

『語用論研究』14号の発行が遅れていることをお詫びします。研究論文2本と研究ノート1本が掲載される予定です。発行までに今しばらくお待ちください。

15号については、研究論文に15本の投稿がありました。これら投稿論文に加えて、昨年度大会で講演を努められたMichael Rundell氏、Charles L. Briggs氏、および林宅男会長からの寄稿を予定しています。

★ 平成24年度(2012年度)大会会計報告

収入	
年会費	131,000
大会参加費	470,000
懇親会費(56名×3,000円)	168,000
大会論集	1,000
収入計①	770,000
支出	
印刷費	422,097
郵送費	141,310
消費税・手数料	27,406
人件費	241,200
文具費	25,214
講師経費(謝金・旅費等)	611,912
懇親会	272,348
支出計②	1,821,014
①-②	▼1,051,014

★ 平成24年度決算報告(案)

収入	
前年度繰越残高	5,883,574
年会費(過年度分・大会分含む)	2,135,000
一般	361口(@5,000) 1,805,000
学生	69口(@4,000) 276,000
団体	9口(@6,000) 54,000
大会参加費(2日分、214口)	470,000
現会員	160口(@2,000) 320,000
新入会員	12口(@2000) 24,000
非会員	42口(@3,000) 126,000
懇親会費	56口(@3,000) 168,000
大会論文集	2,500
補助金(大阪学院大学)	50,000
その他(『語用論研究』印税等)	37,531
合計	8,746,60

支出

印刷費(大会プログラム・プロシーディングス・学会誌等)	999,147
郵送費	277,167
学会ホームページ サーバサービス関連費	12,665
事務局諸費	490,706
人件費(学生アルバイト)	241,200
会議費	162,636
文具費	52,934
その他(消費税・手数料など)	33,936
研究会助成金(1グループ)	18,931
講師渡航費・謝金等(5名)	621,309
懇親会	272,348
言語系学会連合	20,000
合計	2,712,27
次年度繰越金	6,034,332

★ 会費納入のお願い

- ◆今年度の会費を、11月末までにお払いください。
- ◆昨年度までの会費が未納の方には、連絡用紙を同封しております。学会の会計をご理解の上、未納の分も併せてお払いください。行き違いがございました場合は、ご容赦ください。
- ◆会費の未納が2年以上になりますと、会員の資格を失うことになっています。
- ◆振替用紙が同封されていない方は、すでに今年度の会費が納入済みの方です。ご協力ありがとうございます。
- ◆年会費は、一般会員：5,000円、学生会員：4,000円、団体会員：6,000円です。(正しい額でのご入金にご協力お願いいたします。)
- ◆会計業務の業者委託後のクレジットカード払いの詳細につきましては、近く(6月末の予定)ホームページおよびメールリングリストを通じてお知らせいたします。
- ◆クレジットカード以外の振込先は以下の通りです。近年、所属機関のお名前のみでご入金される方が増えてきました。会員名の確認に手間取りますので、必ず会員ご自身のお名前をお書き添えください。

1. 同封の振替用紙で支払う場合：

郵便振替口座：00900-3-130378 (ゆうちょ銀行)
口座名：日本語用論学会

このほか、次の2・3の振込先もご利用いただけます。

2. 他銀行のATMから振り込む場合：

ゆうちょ銀行 支店名：099 当座 口座番号：

0130378 口座名：日本語用論学会(ただし、振り込み手数料がかかります。ゆうちょ銀行のATMからも振り込みが可能です)

3. ATMからの銀行振り込み：三井住友銀行 学園前支店 普通預金 店番号 546 口座番号 3755278 日本語用論学会 五十嵐海理(ただし、他銀行からは振り込み手数料がかかります)

(お願い) 2の場合は、事務局会計には、カタカナのお名前しか通知されません。また3の場合は、通常は通知がありません。お手数ですが、振り込みと同時に、事務局会計(五十嵐海理(龍谷大学)：psj.treasurer_at_gmail.com)にお払いの年度とお名前、会員番号、所属、住所(また、所属、住所に変更がある場合も同様)をメールでお知らせいただければ幸いです。

なお、国外からのお振り込みには、
http://www.jp-bank.japanpost.jp/kojin/tukau/k_aigai/sokin/kj_tk_kg_sk_gaikoku.html(日本語版)
http://www.jp-bank.japanpost.jp/en/djp/en_djp_index.html(英語版)をご使用ください。

☆☆☆☆☆☆

《新刊・近刊案内》

■話し言葉の談話分析

デボラ・カメロン著 林宅男監訳 ひつじ書房
定価 3,200円＋税 ISBN: 978-4-89476-618-1
談話分析の目的及び分析のためのデータ収集と文字化の方法の解説、談話分析のアプローチについての様々な理論(ことばの民族誌、語用論、会話分析、相互行為の社会言語学、批判的談話分析等)の検討、また談話分析のパワーやアイデンティティ等についての社会問題の研究への応用例と実際の談話分析プロジェクトの取り組み方などを紹介する。

■言語の創発と身体性

山梨正明教授退官記念論文集

児玉一宏・小山哲春編 ひつじ書房
定価 17,000円＋税 ISBN: 978-4-89476-631-0
京都大学大学院人間・環境学研究科教授、山梨正明先生が2013年3月に定年を迎えられるに際し、40名以上の教え子が寄稿した記念論文集。本書は、認知言語学、語用論を中心とした近年の言語理論に基づく研究成果を踏まえ、同時に山梨教授の学問観を反映する形で、次世代の言語研究に向けての展望を図ることを目指した。

■ひつじ意味論講座 6巻 意味とコンテキスト

澤田治美編 ひつじ書房

定価 3,200 円＋税 ISBN: 978-4-89476-506-1

『ひつじ意味論講座 (全 7 巻)』の第 6 巻。言語学のほか、様々な分野で活躍する第一線の研究者による、あらたな「意味」研究の書。言語行為と発話、関連性理論、論理的意味論、メタファー理解プロセス、とりたて、指示表現と結束性、感動詞などとの関連から意味とコンテキストについて論じる。

■ポライトネスの談話分析

—初対面コミュニケーションの姿としくみ—

三牧陽子著 くろしお出版

3,990 円 (税込) 2013 年 6 月発売予定

ISBN: 978-4-87424-592-7

初対面するとき、人々はどのように話題を選び、会話を遂行しているのだろうか。また、そこにはどのような配慮が働いているのであろうか。二者間の対面会話から、ポライトネス理論を用いて多様な観点で初対面会話を実証的に分析。

■古代中国語のポライトネス

—歴史社会語用論研究

彭国躍著 ひつじ書房 定価 4,800 円＋税

ISBN: 978-4-89476-633-4

古代中国語の敬語問題に関する初の専門書。歴史社会語用論の視点から古代中国語敬語表現の運用実態、言語規範、副詞体系および訓釈の歴史を明らかにし、ポライトネスの起源と変遷を探究する上での古代中国語のケースを提供する。

■認知日本語学講座第 7 巻 認知歴史言語学

金杉高雄・岡智之・米倉よう子著 くろしお出版

3,675 円 (税込) ISBN: 978-4-87424-587-3

歴史言語学で伝統的に問われて続てきたトピックを、認知言語学の視点からもう一度、捉え直す。「文法化」「(間)主観性」及び新たに提案された仮説から、認知言語学と歴史言語学の融和をめざし、日本語の歴史との「対話」を通じて、言語変化の動機付けを考察する。

■「ている」「ていた」「ていない」のアスペクト —異なるジャンルのテキストにおける使用状況とその用法 (日本女子大学叢書 14)

江田すみれ著 くろしお出版

3,780 円 (税込) 2013 年 3 月発売予定

ISBN: 978-4-87424-581-1

「ている」に加え、これまで注視されてきたとはいえない「ていた」「ていない」を調査。会話及び、大学生が読むであろう新書テキストを

詳細に分析し、それぞれの機能や用法に迫る。日本語学習者に必要な文法とは何かが見えてくる。

■Studies in Japanese Linguistics 12 Predicate Concatenation: A Study of the V-te V Predicate in Japanese

Kentaro Nakatani (中谷健太郎) 著 くろしお

出版 4,410 円 (税込) 2013 年 3 月発売予定

ISBN: 978-4-87424-578-1

二つの動詞が連結し、一つの述語として機能する複雑述語。その「述語連結」の派生メカニズムを、テイク、テシマウ、テイル等 12 種のテ形複雑述語に焦点を当てて統語論・意味論の両側面から追求し、それらに通底する派生原理を考える。

■認識視点と因果

—日本語理由表現と時制の研究

田村早苗著 くろしお出版

2,520 円 (税込) 2013 年 4 月発売予定

ISBN: 978-4-87424-580-4

現代日本語の理由表現とそこに現れる時制形式の性質について、「知識」「認識視点」および「時間」という要素を軸に主に意味論・語用論的側面から分析を行った。

■場所の言語学

岡智之著 ひつじ書房

定価 6,200 円＋税 ISBN: 978-4-89476-626-6

主体や主語、個物(モノ)を中心にして考える従来の言語学に対し、場所や述語(コト)を重視した言語学の構築を主張した書。

■第二言語習得研究と言語教育

畑佐一味・畑佐由紀子・百濟正和・清水崇文編

くろしお出版 3,675 円 (税込)

ISBN: 978-4-87424-576-7

国内外を問わず活動する第二言語習得研究者の論文を日本語で紹介。執筆者: 百濟正和、蔡鳳香、ジュリー・サイクス、柴田智子、清水崇文、高橋宣明、中窪高子、西郡仁朗、畑佐一味、畑佐由紀子、広谷真紀、費曉東、松崎寛、松見法男、アリソン・レイ、山中恵美。

■トートロジーの意味を構築する—「意味」のない日常言語の意味論

酒井智宏 著 くろしお出版 2,940 円 (税込)

2012 年 12 月発売 ISBN: 978-4-87424-565-1

トートロジー(同義語反復)を取り上げ、言語学が哲学に変容していく過程を描き出す。

■これからのコロケーション研究

堀正広編 ひつじ書房

定価 3,800 円＋税 ISBN: 978-4-89476-548-1
英語教育・日本語教育・英語史・辞書学・文体等の各分野におけるコロケーション研究の第一人者が、これまでのコロケーション研究を概観・整理し、これからのコロケーション研究の可能性を様々な面から提示する。

■認知的モダリティと推論

木下りか著 ひつじ書房

定価 7,600 円＋税 ISBN: 978-4-89476-630-3
研究の蓄積が豊富な認知的モダリティ形式について、推論という新たな切り口から体系的意味記述を行った待望の書。本書の分析を貫くのは、非現実世界の認識に推論が介在するという視点である。これにより、証拠、蓋然性等の従来の記述概念は相互に関連付けられ、意味記述が精緻化される。さらに、人間の認識や思考を支える演繹・帰納等の推論の型、類似性・隣接性等の関係性が、認知的モダリティ形式の意味に塗り込まれているさまが詳述される。

■文法化と構文化

秋元実治・前田満編 ひつじ書房 A5 判上製

定価 9,200 円＋税 ISBN: 978-4-89476-628-0
文法化の研究に比べて、構文化の研究は緒についたばかりである。構文文法の誕生以来、国内外で構文研究は盛んになっている。しかし、多くの研究は、構文の通時的発達にはほとんど関心を払ってこなかった。本書は、最新の理論に基づき、コーパスなどを駆使し、通時的、共時的観点から英語を分析した画期的な論文集。

■コミュニケーション能力の諸相**—変移・共創・身体化**

片岡邦好・池田佳子編 ひつじ書 A5 判並製

定価 5,800 円＋税 ISBN: 978-4-89476-611-2
コミュニケーション能力に関わるさまざまな分野（フィールドワーク、言語的社会化、教示・指導場面、医療・福祉現場、法廷・司法、政治討論、ニューメディアなど）からの知見をもとに、そこから浮かび上がる特徴を「変移」、「共創」、「身体化」という観点から検討する。

■待遇コミュニケーション論

蒲谷宏 著 大修館書店

定価 2,940 円 ISBN: 978-4-469-22227-2
他人とコミュニケーションをとろうとするとき、どんな場面—私と相手の関係と、話題の人物と

の関係、その場の状況—で、どのようなことに注意して表現するのか。敬語表現などを中心に、実際に使用される表現を分析しつつ、コミュニケーションの仕組みについて明らかにしていく。

■対人関係の言語学—ポライトネスからの眺め福田一雄著 開拓社 言語・文化選書 38
2013 年 6 月発売予定**■Understanding Pragmatic Markers**Karin Aijmer Edinburgh Univ. Press
(2013/4/23)
ISBN: 978-0748635498**■Pragmatic Theory, Lexical and Non-lexical Pragmatics (Mouton Series in Pragmatics)**Jacques Moeschler Mouton De Gruyter
(2013/5/30)
ISBN: 978-3110218480**■Definite Descriptions**Paul Elbourne Oxford Univ Press
(2013/8/6)
ISBN: 978-0199660193**■Lexical Analysis : Norms and Exploitations**Patrick Hanks The MIT Press (2013/1/25)
ISBN: 978-0262018579**■Relevance Theory (Cambridge Textbooks in Linguistics) (1st)**Billy Clark Cambridge University Press
(2013/6/30)
ISBN: 978-0521878203**■Conversational Repair and Human Understanding**Jack Sidnell Cambridge University Press
(2013/1/17)
ISBN: 978-1107002791**■Strategies of Quantification**Kook-Hee Gil, Steven Harlow, George Tsoulas
Oxford Univ Press (2013/4/22)
ISBN: 978-0199692446**■Metaphor (Key Topics in Semantics and Pragmatics)**Ritchie, L. David Cambridge University Press (2013/1/10)
ISBN: 978-1107022546